

# 12歳のための小説すらすら講座

## 第6回 タイトルをつけよう!

小学五年生で大活躍中の  
文具天国のメンバーだ!



小説がす～らすら書けちゃう!?  
この講座を参考にして、「12歳の文学賞」に作品を応募しよう!

監修/奈良裕明(作家)  
89年「チンドン・ジャン」にて第13回すらすら文学賞受賞。96年より「松涛スクール/文章の学校」に講師として参加。また、自治体主催の文章教室で、11歳から82歳まで指導した実績を持つ。著書に「小説を書くための基礎メソッド」(吉島社刊)など。

実際に変更になった小説を例に、タイトルがいかに大切かを学んでいこう!

人が読みたいくなるようなタイトルをつけたいな!

タイトルってそんなに重要なのかな?

小説のタイトルがなんらかの理由で、変更になる場合がある。

今日は書いた小説にタイトルをつけてみよう。タイトルは最後につけるとは限らないから、まだ書き上げていない人も参考にしてほしい。

### 小説のタイトル ビフォー・アフター!?

#### 「恋するソクラテス」→「世界の中心で、愛をさけぶ」



片山恭一  
Story 主人公は高校2年生の朔太郎。物語は最愛の恋人アキの死から始まり、生前の思い出が語られる。アキの死から十数年後も朔太郎は彼女を忘れられず、現在の恋人と郷里を訪ねる。悲しくも美しいラブストーリー。

ご存じ、大ベストセラーの「セカチュー」に、幻のタイトルがあった。出版前に、一度聞いたら忘れられないインパクトのある現タイトルに変更となったのだ。もし元のタイトルのままだったら「コイソク」とよばれていた、かも?

#### 「屍の足りない密室」→「密室の鎮魂歌」



岸田るり子  
Story ある画家の個展で、女は「汝、レクイエムを聴け」という絵を見て驚く。5年前に失踪した夫の居場所をこの画家は知っていると感じたからだ。画家と夫の接点は? そして、次々に起こる密室殺人事件との関係は?

前者は鮎川哲也賞応募時のタイトルで、受賞後改題され発売された。「鎮魂歌」とは死者の霊をなくさめる歌のこと。女が見た問題の絵のタイトルとも重なる。改題で直球でわかりやすくなり、読めいた感が増した。

#### 「とらえられたスクールバス」→「時空の旅人」



眉村卓  
Story 未来から来た少年に、スクールバスがジャックされタイムスリップ。乗り合わせた現代の少年少女、教師たちも終戦直後に辿り着くが、バスはさらに過去へと時空をさまよい続ける…。

アニメ映画化されたときのタイトルが「時空の旅人」。それにともなって、小説のほうも改題された。もともとは少年少女向けの小説だが、改題で映画同様、壮大なイメージが広がり、幅広い年齢層向けとなった。

#### 「容疑者X」→「容疑者Xの献身」



東野圭吾  
Story まじめでさえない高校の数学教師が、アパートの隣人で弁当屋で働く美しい女に恋をする。しかし、女の元夫が現れ、教師は抜き差しならない状況に巻き込まれていき…。

連載時のタイトルを単行本化するにあたり改題。容疑者の「献身」的姿がこの物語のカギ。ミステリーという性質上、連載時にはネタバレになるから伏せていたのか? 同作家はほかにも単行本化の際、改題している作品がある。

タイトルを変えると、こんなにも受ける印象が変わる。書いたものには読み手がいるということを意識し、より人の興味を引くタイトルをつけよう!

